

「ダイバーシティ&インクルージョン」の理解促進に向けて！

各種会合等において、学校や教育委員会にもお知らせしているところですが、いばらき教育プランにも明記されている「ダイバーシティ社会」の実現に向けて、県では様々な取組を行っています。その取組の1つが、小学校高学年から中学生を対象とした、ダイバーシティ普及啓発コンテンツ(webゲーム)「ダイバーシティへの旅2024～七つの島の番人(モンスター)～」になります。

ダイバーシティ(多様性)とは、人々の性別や年齢、国籍などの違いを尊重し、個性を生かす考え方。インクルージョン(包括・受容)とは、多様性を受け入れ、活用するプロセスのことです。一言で表すなら、「人々の個性と能力に応じた活躍の場を提供する」ということができます。これらは人々の多様性を認め、その能力を最大限に生かすことができる先進的で、これからの時代を生き抜く子供たちに必要な考え方です。誰もが個々の能力を発揮できる社会の実現に向け、1人一台端末を有効に活用しながら、教育活動の一部としてwebゲームをご活用ください。



【第1弾】



【第2弾】

春夏冬話(あきない話)

「締め切り日」の話



それは、むかしむかし、自分が管内の某市教育委員会に勤務していた時のことである。ある調査物の報告を待っていた目の前の係長がぼやいていた。「〇〇校の□□教頭は、いつも締め切り日ぎりぎりで、△△が分からない・・・と言ってくるんだ!」「早めに連絡をくれれば、いくらでも相談にのれるのに・・・。」「まずは、締め切り期限内の早めに、ある程度の完成度でいいから、出してほしいんだ・・・そうすれば、こちらも対応できる・・・。」と。

この場面は、自分には驚きだった。私の知り得る中で、学校の先生は真面目で頑張り屋である。どうしても自分だけで100%を目指してしまう。(そうでない方もいたけど・・・)自分の力でぎりぎりまで頑張り、100%を目指しましたが、結局、できず、締め切り日になってしまいました・・・は、美談かもしれないが、世間では通用しない。相手に迷惑をかけ信頼を失う。

これを契機に、自分の中で仕事(業務)の処理について一つの”掟(おきて)”ができた。

【掟1】相手がある仕事を最優先する。(自分の中で完結することは後にする。)

【掟2】締め切りがあるものは、できるだけ早く提出する。(分からないことは、早めに相談する。最終日に、「出しました!」は自慢できない。)

仕事が溜まってくると辛い。でも、その向こうには“相手”がいることを忘れないように心がけている。

(by F・S)